

資者無きを患へず亦復興不能を患へず、患ふる所は公司關係者内部の意見が紛岐して融和の出來ない事に在るのみと。

### ●本多博士の近況

歐米視察の途にある東北大學金屬材料研究所長本多光太郎博士は鐵鋼學のオーソリチイとして各國より非常なる歓迎を受け日夜講演攻めに會つて居られた由である日本の學者として此の歡待振りは恐らく空前の事實であるといはれ、シカゴ毎日紙のごときは寫真入り三段抜きで最大の科學者今夕當市著といつた記事を掲載し、英獨の新聞紙もまた同様の取扱ひをし、最近到著した獨逸の雜誌メタル・コンデとスタール・ウント・アイゼンの兩誌は左の如く報じて居る。

ドクトル本多は渡米早々加州大學の懇望を受け講演を試みたが、そのことが翌日の新聞に報道されるや東部中部の大學研究所、協會等から相亞いで續々と講演を申込み、ドクトル本多をして途方に迷はしめた、殊にデトロイト以西の都市では米國鐵鋼協會の各地支部ではプログラムを作製して停車場に着くや直ちに博士を自動車に拉して視察講演歡迎會といふ風に目まぐるしい活動を強ひるといふ有様、當伯林では學界の歡迎殊に熾烈を極めドクトル本多のため獨逸の大家が二日に亘つて學術招待會を催し、獨、和、白の専門大家が伯林大學に參集した席上で、博士は大講演を行つたが其の講演が濟んだあとで集つたオートソリチイ達から種々の質疑を受け、それに對する鮮かな應答振りは學界の驚異とされたと。

尙本多博士は英國から再度米國に渡り桑港より本月二十八日歸朝せらるる豫定である。

### ●大阪に於ける理研聯合大講演會

曩に東京に於て第一回を催して空前の大成功を收めたる工政會主催理化學研究所聯合理工科大講演會は來る十一月十一日より同十五日迄大阪に於て第二回を開催する事となり、大阪市、大阪商業會議所、大阪工業會、關西技術家聯合會等協賛の下に大河内所長始め東西の各試験所研究所の専門大家出席大講演會あるべく、會費金二圓、婦人の聽講をも歡迎する由。

### ●正 誤 (第十年第八號)

27	上、最後ノ行	..... = l	..... = $\sqrt{l}$
29	上、14行目	反射 應	反射狀態
29	上、16行目	A及 B部	A及 B部
32	下、12行目	$\pi(\dots) = l\pi(\dots)$	$\pi(\dots) = K\pi(\dots)$
32	下、13	$\pi(\dots) = l\pi(\dots)$	$\pi(\dots) = K\pi(\dots)$
32	下、14	$\pi(\dots) = l\pi(\dots)$	$\pi(\dots) = K\pi(\dots)$
32	下、15	$\pi(\dots) = l\pi(\dots)$	$\pi(\dots) = K\pi(\dots)$
32	下、18	$B_1 - \gamma_1$	$R_1 = \gamma_1$
32	下、20 行目	$\sqrt{\frac{R_1^2 + [3+2 l-1]R_1^2}{3K}}$	$\sqrt{\frac{R_1^2 + [2+3](K-1)R_1^2}{3K}}$
32	下、21	$\sqrt{\frac{2R_1^2 + [1+3 l-1]R_1^2}{3K}}$	$\sqrt{\frac{2R_1^2 + [1+3(K-1)]R_1^2}{3K}}$
32	下、22	$\sqrt{\frac{R_1^2 + (l-1)R_1^2}{K}}$	$\sqrt{\frac{R_1^2 + (K-1)R_1^2}{K}}$
33	上、5行目	$l_1 = \dots l_2 = \dots K_3 = \dots$	$K_1 = \dots K_2 = \dots K_3 = \dots$
33	下、5行目	$K_5 = 2,545$	$K_2 = 2,545$

圖面第十二、第十三、第十四、第十五、左右入レ違ヘ